

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2017年6月)

発表日: 2017年7月31日(月)

～予測指数は良好。7-9月期も増産の可能性大～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528

(単位: %)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
16	1月	1.1	▲ 3.7	0.5	▲ 5.2	0.3	0.2	1.0	4.2	1.2	▲ 10.6	0.5	▲ 1.2
	2月	▲ 1.8	▲ 1.0	▲ 1.6	▲ 1.4	▲ 0.5	▲ 1.1	▲ 1.9	0.4	▲ 2.2	▲ 1.5	▲ 1.6	▲ 0.1
	3月	1.2	0.4	1.3	▲ 0.4	1.6	1.1	1.9	3.3	0.8	▲ 4.5	1.3	1.5
	4月	0.4	▲ 3.2	0.3	▲ 3.1	▲ 1.4	▲ 0.5	▲ 1.4	1.3	3.4	▲ 3.1	2.5	1.3
	5月	▲ 1.2	▲ 0.6	▲ 0.7	▲ 0.9	0.2	0.3	0.7	2.3	▲ 1.2	▲ 1.3	▲ 3.1	1.7
	6月	1.5	▲ 1.6	1.1	▲ 1.6	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 1.1	2.3	0.8	▲ 2.8	0.6	▲ 0.5
	7月	0.0	▲ 4.2	0.3	▲ 3.8	▲ 1.7	▲ 2.4	0.6	3.6	0.0	▲ 4.4	1.6	▲ 1.4
	8月	1.3	4.5	0.2	1.8	0.0	▲ 2.1	▲ 2.5	▲ 2.7	1.3	2.6	▲ 0.7	2.7
	9月	0.3	1.5	0.6	0.8	▲ 0.5	▲ 2.7	0.3	▲ 0.7	0.8	3.8	0.4	1.3
	10月	0.3	▲ 1.2	1.1	▲ 1.8	▲ 1.3	▲ 3.6	▲ 1.1	0.4	0.3	1.6	1.9	▲ 0.5
	11月	1.0	4.4	1.0	5.0	▲ 1.8	▲ 5.5	▲ 3.7	▲ 7.2	2.0	7.6	0.8	6.0
	12月	0.7	3.1	0.0	2.4	0.7	▲ 5.3	0.8	▲ 6.4	▲ 0.7	4.9	▲ 1.5	0.6
17	1月	▲ 2.1	3.2	▲ 1.1	4.2	0.1	▲ 5.0	2.5	▲ 5.0	▲ 2.3	4.4	▲ 2.1	1.5
	2月	3.2	4.7	1.4	3.7	0.7	▲ 3.9	▲ 0.3	▲ 3.4	1.7	4.0	3.0	3.3
	3月	▲ 1.9	3.5	▲ 0.8	3.5	1.5	▲ 4.0	0.2	▲ 5.1	▲ 4.4	1.6	0.0	3.3
	4月	4.0	5.7	2.7	4.9	1.5	▲ 1.1	2.9	▲ 1.1	6.5	4.2	5.2	5.0
	5月	▲ 3.6	6.5	▲ 2.9	5.4	0.0	▲ 1.3	▲ 1.9	▲ 3.6	2.1	9.5	▲ 3.8	6.8
	6月	1.6	4.9	2.3	5.1	▲ 2.2	▲ 3.1	▲ 2.1	▲ 4.5	▲ 1.4	5.6	1.9	6.7
	7月	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8月	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 17年7、8月は、製造工業生産予測調査の数値

○在庫率の低下が好材料

経済産業省より発表された2017年6月の鉱工業生産は前月比+1.6%となった。ほぼ事前の市場予想(前月比+1.7%)通りの結果でサプライズはない。17年入り以降、比較的大きな幅でプラスとマイナスを繰り返すなど、季節調整が上手くかかっていない感は否めないが、均してみれば生産は着実な上昇傾向を続けていると評価してかまわない。

実際、4-6月期の鉱工業生産は前期比+1.9%と5四半期連続での上昇となった。17年1-3月期は前期比+0.2%と、16年7-9月期の+1.6%、10-12月期の+1.8%の高い伸びからの反動で小幅上昇にとどまったが、4-6月期は再び高い伸びとなっている。業種別にみると、特にはん用・生産用・業務用機械(前期比寄与度+0.7%Pt)と輸送機械(同+0.7%Pt)がけん引役となっている。また、電子部品・デバイスについては、これまでよりも伸びは鈍化したものの、前期比+1.3%(前期比寄与度+0.1%Pt)とプラスを保った。

また、6月の出荷指数は前月比+2.3%と、生産指数を上回る高い伸びになっている。この結果、在庫指数は前月比▲2.2%と7ヶ月ぶりに低下、在庫率指数は▲2.1%と2ヶ月連続で比較的大きな低下となっている。ここ数ヶ月、在庫指数が上昇していたことが懸念材料として指摘されることが多かったが、今回の在庫率低下により、こうした懸念は若干和らいだと思われる。

○予測指数は良好。7-9月期も増産の可能性大

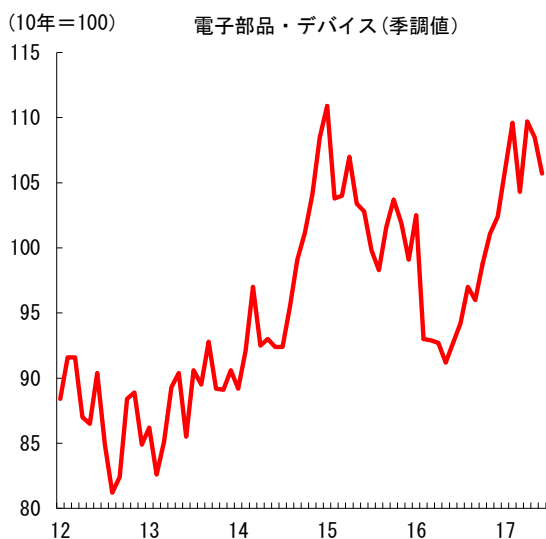
同時に公表された製造工業予測指数では、7月が前月比+0.8%、8月が+3.6%と、比較的良好な数字が出ている。予測指数からの下振れ傾向を考慮している経済産業省試算値では7月は前月比▲0.3%と微減となるが、6月の上昇の後には悪くない数字だ。また、8月の伸びは非常に高く、多少下振れたとしても前

月比ではっきりと上昇するのは固いところ。なお、7月が試算値通り、8月が多少下振れて前月比+2.5%（9月は横ばい）と仮定すると、7-9月期は前期比+1.2%になる。4-6月期から伸びは鈍化するものの、7-9月期も前期比プラスが見込めそうだ。生産は引き続き着実な回復基調にあると判断して良いだろう。

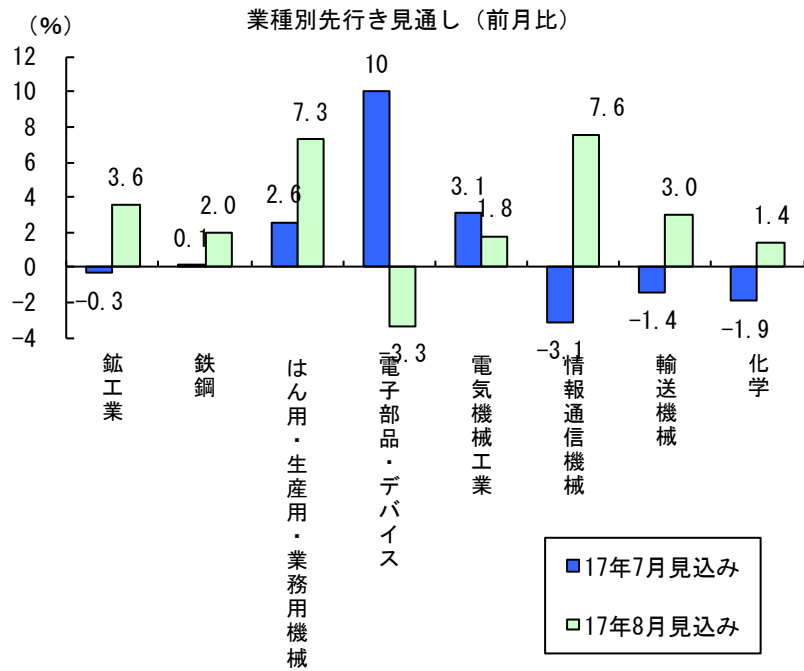
こうした生産活動の強さの背景には、良好な外部環境がある。4-6月期については輸出の伸びは一服した形だが、これまでの伸びが高かったことの反動もあり、基調としては増加傾向とみて良いだろう。先行きも、米国を中心として海外経済が回復傾向を続ける可能性が高いなか、輸出は好調に推移する可能性が高いと予想する。加えて、内需についても、企業収益の改善を背景に設備投資の増加が見込まれることが押し上げ要因になるほか、公共投資も経済対策効果が目先残存しそうだ。鉱工業生産は、ペースこそやや鈍化するものの、先行きも増産傾向が続くと予想している。

○ 消費関連、設備投資関連とも良好

出荷を財別にみると、消費関連、設備投資関連とも好調さが持続している。消費財出荷は前月比+1.9%と上昇し、4-6月期では前期比+4.2%と高い伸びになった。他の個人消費関連指標でも足元では比較的強めのものが目立っており、個人消費は緩やかに持ち直しているとみられる。また、4-6月の資本財出荷は前期比+2.8%、輸送機器を除いたベースでは+4.8%と高い伸びだった。出荷指数には輸出向けが含まれていることに注意は必要だが、そのことを考慮しても4-6月期の設備投資は上向いた可能性が高いだろう。



出所) 経済産業省「鉱工業指数」



(出所) 経済産業省「製造工業生産予測調査」